

兵庫県立大学 名古屋市等との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



【出典: 減災古文書研究会 <https://sites.google.com/view/gensai-komonjo/>】

【どこから】

兵庫県立大学と名古屋大学を中核とした複数の研究機関・自治体の有志が集った取組である。

【どんな課題】

地震や風水害に関する古文書を解読することで、過去の災害による被害の様相と復興の過程を明らかにし、今後の対策に活かすこと。

【参加者】

大学教職員、名古屋地区自治体職員・住民、兵庫県及び近畿地方の歴史災害研究者



研究成果(シーズ)の還元



【古文書解読】



【かわら版すごろく】

【実施内容例】

- ・2024年10月の熊本市開催「ぼうさいこくたい2024」へワークショップ「すごろくで遊んで学ぶ！安政の南海トラフ地震」出展
- ・三重県鳥羽市にて歴史災害の現地巡検を実施
- ・2024年8月開催の「第5回 関西歴史災害研究懇談会」における活動紹介
- ・2024年8月開催の「地域安全学 夏の学校」における活動紹介

【活動成果】

- ・子どもや保護者へ過去の災害について遊びを通して伝える
- ・災害に関する古文書の翻刻集(デジタル書籍)作成

この連携に携わった研究者



減災復興政策研究科
平井 敬 准教授

(研究者からのメッセージ)

減災古文書研究会には災害研究の専門外の方も多く参加しており、知識と史料解読スキルの獲得だけでなく、一人ひとりの防災意識の底上げにも貢献しています。我々の活動の成果が多くの人の目に留まることで、歴史災害研究のサポートと社会還元につながると考えています。

※ 研究者の経歴等は(URL:<https://sites.google.com/view/drg-eqlab/>)をご参照下さい。